

## 序

近年、夏期が高温で推移する傾向にあり、特に平成11年はカメムシによる斑点粒や白未熟粒の多発によって著しい品質低下が生じたことから、平成12年度には試験研究成果を中心に「高温による水稲作への影響と今後の技術対策に関する資料集」として取りまとめ、農業関係機関に情報提供したところである。

平成13年は、生育前半から全国的な高温となり生育が大幅に進んだが、出穂期以降では、北海道、東北の北部の地域で低温・日照不足となった一方、北陸、関東以西では高温や日照不足によって白未熟粒等の発生で1等米比率が大幅に低下した地域がみられた。

このため、平成13年度においても引き続き高温が水稲の品質に与える影響について検討し、今年度は生産現場の実態を中心に取りまとめを行った。

本書では、高温障害の改善策を講じている各県の品質低下の実態とその対策方策や指導状況について取りまとめるとともに、大臣官房統計情報部、食糧庁の協力を得て、営農現場における気象・生育経過と米の品質に関するデータを収集し分析した結果を取りまとめた。

本書が、水稲栽培に関係する全国各地の指導者の方々の一助となることを願うとともに、乳白粒発生等の高温障害が防止され、米の品質の維持向上が図られることに期待したい。

平成14年4月  
大臣官房技術総括審議官  
大森 昭彦